



Japan
Food
Research
Laboratories

試験報告書

第 199071311-001 号

依頼者 株式会社 ニッショー

検体 aPIZAS (OK・W・7・ON・OJ・DS)

試験項目 かび抵抗性試験

平成 11 年 07 月 13 日 当センターに提出された
上記検体について試験した結果は次のとおりです。

平成 11 年 08 月 25 日

財団法人

日本食品分析センター

東京本部 〒151-0062 東京都渋谷区代々木町52番1号
大阪支所 〒564-0005 大阪府吹田市豊津町3番1号
名古屋支所 〒460-0011 名古屋市中区大須4丁目5番13号
九州支所 〒812-0034 福岡市博多区木下呉服町1番12号
多摩研究所 〒206-8625 東京都多摩市永山6丁目11番10号

かび抵抗性試験

1 依頼者

株式会社 ニッショー

2 検体

aPIZAS (OK・W・7・ON・OJ・DS)

3 試験目的

検体のかび抵抗性試験を行う。

4 試験概要

検体をそのまま試料とした。試料のかび抵抗性試験を、JIS Z 2911:1992「かび抵抗性試験方法」一般工業製品の試験を参考にして行った。ただし、培養期間は14日間とした。

5 試験結果

結果を表-1に、結果の表示方法を表-2に示した。

表-1 試料のかび抵抗性試験結果*

試料表面のかび発育状態	
7日後	14日後
3	3

* 表-2参照

表-2 試験結果の表示方法

菌糸の発育状態	かび抵抗性の表示
試料又は試験片の接種した部分に菌糸の発育が認められない。	3
試料又は試験片の接種した部分に認められる菌糸の発育部分の面積は、全面積の1/3を超えない。	2
試料又は試験片の接種した部分に認められる菌糸の発育部分の面積は、全面積の1/3を超える。	1

6 試験方法

1) 試験菌

Aspergillus niger IFO 6341

Penicillium citrinum IFO 6352

Chaetomium globosum IFO 6347

Cladosporium cladosporioides IFO 6348

Rhizopus oryzae IFO 31005

2) 混合孢子懸濁液の調製

試験菌をポテトデキストロース寒天斜面培地で、25℃、10日間培養後、形成された孢子5白金耳量をそれぞれ0.005 %スルホコハク酸ジオクチルナトリウム溶液10 mlに浮遊させ、単一孢子懸濁液とした。

各単一孢子懸濁液を等量ずつ混合し、混合孢子懸濁液とした。

3) 試験操作

検体1.0 gを滅菌プラスチックシャーレに入れ、平らに広げて試料とした。試料の表面に混合孢子懸濁液を1.0 ml滴下後、温度28±2℃、湿度約97 %で14日間培養した。培養中、7日ごとに試料表面のかびの発育状態を肉眼で観察した。

以 上